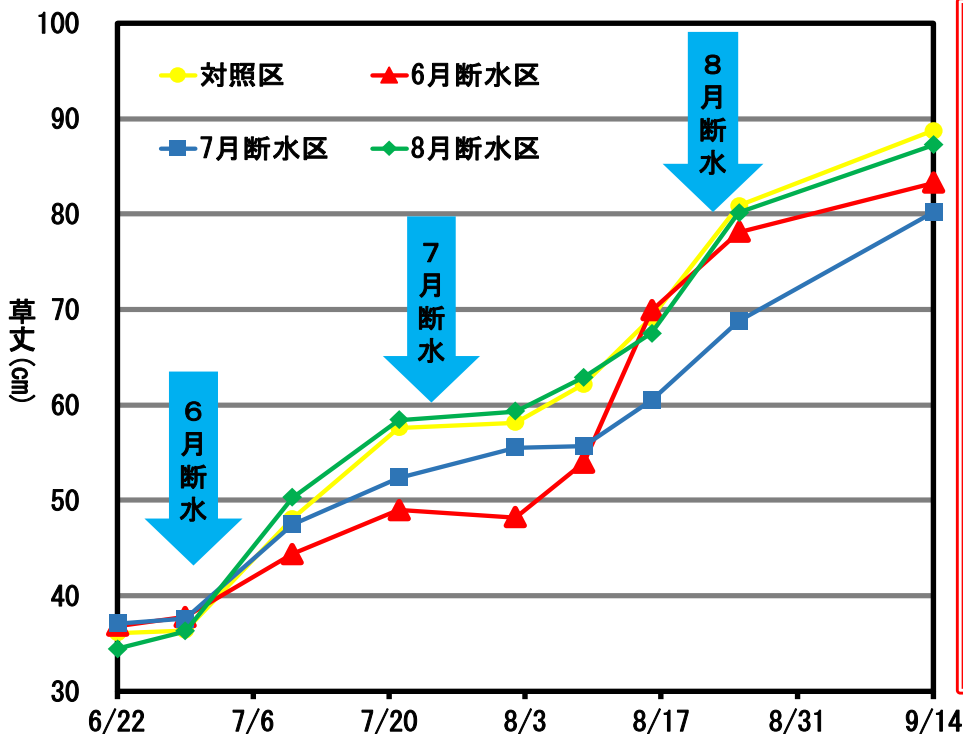


サトイモが水分ストレスを受ける時期の違いがその後の生育に及ぼす影響

農林水産研究所

サトイモ（愛媛農試V2号）をハウス内でコンテナ栽培し、上から3枚目の葉が5～10%黄変するまで断水を行ったところ、6月断水区の子茎数と収量が最も減少しました。



①水分ストレスがかかると、草丈の伸びが鈍化。

②その後、水分が十分にある状態を維持すると、草丈は、ある程度回復。

③8月断水区では、草丈への影響は少。

第1図 水分ストレスの時期がその後の生育に及ぼす影響

第1表 水分ストレスの時期が1株当たりの子茎発生数と収量に及ぼす影響

試験区	子茎発生数			親芋 重量 (g)	子芋		孫芋		子芋+孫芋 重量 (g)
	6/29	7/21	8/25		数 (個)	重量 (g)	数 (個)	重量 (g)	
対照区	0.6	4.4	11.0	288	10.6	613	42	1,628	2,240
6月断水区	0.8	3.8	5.8	252	10.2	480	36	1,200	1,680
7月断水区	1.8	3.6	9.0	245	11.6	532	43	1,445	1,977
8月断水区	1.6	3.4	10.4	310	9.4	536	42	1,648	2,184

④6月断水区では、子茎の発生数が少なくなった。

⑤収量は対照区、8月断水区、7月断水区、6月断水区の順になった。

草丈は、ある程度回復しても、収量は減少する。

生育期間を通して水分ストレスを与えない管理が重要。

サトイモの肥大推移

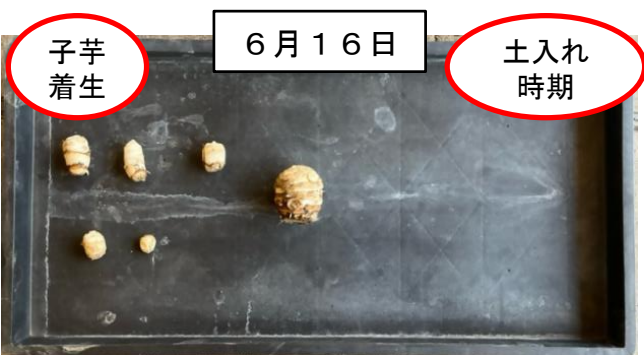
～地下の芋はこうして大きくなっている～

農林水産研究所

◆サトイモの生育

3～4月に定植したサトイモは、8月下旬頃まで地上部の生育が旺盛に進み、その後、葉の活力低下に伴って芋部の肥大が急速に進みます。普段、収穫まで目には見えない芋部がどのように肥大しているのか紹介します。

◆肥大推移（農林水産研究所、令和5年4月4日定植）



6月16日

子芋着生

土入れ時期

親芋重：53.8g
子芋数：5.3個 子芋重：22.2g



7月19日

孫芋着生

親芋重：270g
子芋数：8.7個 子芋重：314g
孫芋数：8.3個 孫芋重：37g



8月15日

芋が長い

地上部最大時期

親芋重：414g
子芋数：9.0個 子芋重：490g
孫芋数：15個 孫芋重：460g



9月16日

芋が丸い

親芋重：720g
子芋数：9.0個 子芋重：792g
孫芋数：19個 孫芋重：1,086g



10月12日

親芋重：806g
子芋数：8.0個 子芋重：965g
孫芋数：21個 孫芋重：1,203g

芋は、着生後縦に伸長した後に横に肥大します。**葉の倒伏や黄化が進むにつれ芋の肥大も進行することから、このようなサトイモ株から収穫しましょう。**

‘媛かぐや’の新たな安定生産技術と栽培における注意点

農林水産研究所

‘媛かぐや’は、オリジナル食材として注目され続けている県育成のサトイモ品種です。独特な食味を持つことから、青果用だけでなく、加工原料としても注目されています。新たな安定生産技術と栽培にあたっての注意点を紹介します。

媛かぐや



	媛かぐや	伊予美人
食用部位	親芋	子芋、孫芋
収穫時期	11~12月	9~4月
芋形状	砲弾型	丸型
肉質	ほくほく 甘い	ねっとり
お奨めの調理法	炊き合わせ 揚げ物 おでん スイーツ	芋炊き グラタン 煮っころがし
推進方針 (中心対象者)	期間限定 加工原料 (産直市 法人)	産地戦略 (法人 大規模)

新たな栽培方法

月 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1

セル苗

定植

収穫



貯蔵中に萌芽した芋を切り揃えて、50~72穴セルトレイに移植



セル苗を6月中旬に定植 4,500株/10a
2条千鳥 植付深1cm



収穫は手で芋をねじり引き抜く
※マルチ下の芋は翌年の種芋

栽培上の注意点

- ・ 畝は平畝(畝高10cm程度)とし、2条千鳥定植とする
- ・ 害虫(ハダニ類、ハスモンヨトウ、スズメガ類)が多発しやすいため、生育初期から防除に努める
- ・ 収穫が早過ぎると、媛かぐや本来の甘味が少なくえぐみが残っていることから、12月頃に収穫する
- ・ 親芋収穫後は、早急に畝上部へ土入れや敷き藁等の寒害対策を実施し、子芋(種芋)の品質低下を防ぐ

サトイモ全期マルチ栽培における「生分解性マルチ」の利用

農林水産研究所

◆全期マルチ栽培における「生分解性マルチ」の必要性

県内ではサトイモの全期マルチ栽培が定着しており、生産者のほとんどが収穫時に回収が必要なポリマルチを使用しています。しかし、自然に分解される「生分解性マルチ」の利用により、マルチの除去・処分に係る労力や費用を削減できます。



ポリマルチ



マルチ除去作業

省力化・プラスチック廃棄物の削減効果



生分解性マルチ



耕うんによるすき込み

◆生分解性マルチの利用による収量への影響および省力効果

表1 1株あたり収量(11月上中旬)

試験区		親芋重		子芋		孫芋		子・孫芋重 (g)
		(g)	数 (個)	重量 (g)	数 (個)	重量 (g)		
Aほ	生分解性	635	7.0	602	14.2	1,371	1,973	
	ポリマルチ	596	7.3	679	14.7	1,127	1,806	
Bほ	生分解性	504	7.0	685	17.0	951	1,616	
	ポリマルチ	435	7.3	570	23.7	1,271	1,841	

現地2ほ場(A、B)で調査。生分解性：生分解性マルチ展張畝区。
ポリマルチ：ポリマルチ展張畝区(対照)。

表2 ポリマルチ除去の必要時間(11月下旬)

除去方法	除去時間 (時間/10a)
全手作業	約12
トラクタ	約9

トラクタ：マルチを押さえている畝周りの土を取り除く作業をトラクタ使用で実施。

※土入れを実施している畝で測定。

生分解性マルチの利用によって、子・孫芋重を大きく減少させることはなく、ポリマルチ除去に要する作業時間(手作業：約12時間、一部機械作業：約9時間)を短縮することができます。

サトイモ産地は必須！ 「土入れ」技術による効果

農林水産研究所

◆全期マルチ栽培における土入れ

現在、サトイモの土寄せ、追肥を省略する全期マルチ栽培が定着しています。また、芋の良好な肥大促進による収量や品質向上のため、5月下旬～6月中旬にマルチ上部へ覆土する土入れが必須作業となっています。



歩行型管理機(左)および乗用管理機(右)による土入れ作業

土入れ後の畝

◆土入れの効果

○1株あたり地上部生育(定植日：4月4日、調査日：8月16日)

	草丈 (cm)	葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	子莖数 (本)
土入れ無	208	174	66.6	50.1	4.6
土入れ有	196	163	60.4	45.6	6.1

○1株あたり地上部生育(定植日：4月4日、調査日：11月10日)

	親芋重 (g)	子芋		孫芋		子・孫芋重 (g)	筍芋数 (個)
		数 (個)	重量 (g)	数 (個)	重量 (g)		
土入れ無	711	7.5	463	16.2	1,017	1,480	4.8
土入れ有	658	7.7	604	15.6	1,189	1,793	1.8

<土入れのメリット>

- ①子莖の萌芽促進 → 子・孫芋重の増加
- ②畝内部の高温・乾燥防止 → 筍芋など生理障害芋の発生抑制

形と味で勝負！県オリジナルの サトイモとツクネイモ

農林水産研究所

サトイモ ‘愛媛農試V2号’ (伊予美人)

[主な特徴]

- ①収穫期は9月～3月
- ②主に子・孫芋を食べる
- ③「女早生」より大きく丸い
- ④肉色は白い
- ⑤粘りが強い

(品種登録：平成20年2月)



「たくさん採れる！」

サトイモ ‘媛かぐや’

[主な特徴]

- ①収穫期は11～12月
- ②主に親芋、ずいきを食べる
- ③芋の形は砲弾型で大きい
- ④粉質で甘みがある

(品種登録：平成22年3月)



「甘くてホクホク！」

ツクネイモ ‘やまじ王’

[主な特徴]

- ①収穫期は11月
- ②在来種よりも芋が丸く、
秀優品率が高い
- ③粘りは中程度か若干強い

(品種登録：平成21年7月)



「かたち良し！」